

はいりよ ひつよう 配慮にあたって必要なこと

1 コミュニケーションを大切に

お互いに、相手の意思を確認する気持ちが大切です。会話をするのが難しいと思われる場合でも、避けたり、わかったふりをしたりせず、相手の意見を聞く姿勢を持ちましょう。

2 相手の立場を尊重すること

だれもが人格を尊重されるべき、ひとりの人間です。思いこみや押しつけではなく、相手が必要としていることを確認することが大切です。介助の人や手話通訳者ではなく、本人と直接対話をしましょう。

3 困っている人がいたら声をかけること

障害の有無や特性は、外見からは見えないこともあります。「困っているかも」と感じたら、声をかけましょう。障害についてたずねるのではなく、相手が「どんな手伝いを必要としているのか」を聞くことが大切です。

4 柔軟な対応を心がけること

相手の話をよく聞き「何に困っているのか」をしっかりと理解できるようつとめましょう。応対方法がわからない時、自分ひとりで抱えるのではなく、周囲の人に協力を求めることも大切です。

5 不快な言葉は使わないこと

差別的な言葉はもちろん、不快に感じるかもしれない言葉を使っていないか考えましょう。また、相手を下に見るような態度で話していないか考えましょう。

ポイント

ひとり一人ひとりとコミュニケーションをとることが大切です。困っている人がいたら、まずはその人の状況や必要な配慮は何かを聞き、姿勢を大切にしましょう。



まずは声かけから始めよう

気づき、考え、行動する「バリアフリー」を实践しよう

キーワード 心のバリアフリー

わたしたちには、それぞれ障害の有無や心身の特
性、考え方、育った環境などが異なり、一人として同
じ人はいません。お互いの理解を深めるためにコミュ
ニケーションをとり、支え合うことを「心のバリアフ
リー」と言います。さまざまな「バリア」をなくし、
差別や偏見のない社会をつくるために、大切なことは
なんでしょうか。



あぶ 危険な「無関心」

普段の何気ない発言や、行動をふり返ってみましょう。そのなかに、誤解や偏見はふくまれて
いませんか。気づかないうちに（無意識のうちに）つくり出す「意識上のバリア」は、設備
を整備するだけでは解消できません。

大切なのは、すべての人が障害の有無など「他人と違うこと」で分け隔てられることなく、
人権を守られていることです。そのためには、周囲の人に目を向け、まずは関心をもつことが
大切です。無関心によってバリアをつくったり、バリアを見過ごしたりすることもあります。
困っている人に気づかないふりをしていないか、だれかを傷つけることをしていないか、もう
一度考えましょう。

